

## 第2章

# 由布市のくらしと文化





## 由布市の交通

### ゆふし はし てつどう 由布市を走る鉄道

由布市の鉄道は、JR九州の久大本線が運行しています。市内には、8つの駅があります。JR久大本線を走る特急列車は、特急「ゆふいの森」（市内は由布院駅のみ停車）と、特急「ゆふ」（市内は由布院駅、湯平駅、向之原駅に停車）があります。由布院駅には、JR九州が運行する豪華列車「ななつ星」がとまります。普通列車は1時間に1本～3本が運行し、市民の足です。



### 由布院駅

ロビーが高さ12mの吹き抜けで、改札口がなく正面玄関からホームまで開放的につながっています。大分市出身の建築家、磯崎新氏が設計しました。木造の駅舎は、建物全体が黒で統一され上品でおしゃれ。待合室を兼ねたホールでは絵画の展示会も行われ、どなたでも楽しむことができます。1番線ホームには、足湯（有料）があります。



### みたことがあるかな？

#### 「ななつ星」

豪華列車クルーズトレイン「ななつ星in九州」が平成25(2013)年10月15日に運行を開始しました。「ななつ星」の利用客は、由布院駅で一度降りて由布院のまちなかを散策したあと、旅館で1泊しています。大分県内では、由布院駅以外に、別府駅、大分駅、豊後竹田駅などに停車します。

## ゆふし はし 由布市を走るバス

ゆふし はし しゅるい  
由布市を走るバスは3種類あ  
ります。1つめは地域の人がお  
もに利用するバスです。これに  
は、大分バスや亀の井バスとい

う民間の会社が運行するものと、ゆふし うんこう  
由布市が運行するコミュニティバス  
「ユーバス」やスクールバスがあります。2つ目は、かんこうきゃく おも りよう  
観光客が主に利用  
するバスです。かめ い ゆふいん ベっぶ  
亀の井バスが由布院と別府をつな  
いで運行しています。3つ目は、こうそくどうろ りよう  
高速道路を利用  
して運行するバスです。ふくおかほうめん おおいたくこう い  
福岡方面や大分空港に行  
くことができます。ゆふいんえきまえ  
由布院駅前のバスセンターで  
乗ることができます。



ユーバスは、  
このマークが  
めじるしだよ！



## ゆふし どうろ 由布市の道路

こくどう ごう ゆふし ちゅうしん はし おおいたし このえまち  
国道210号が由布市の中心を走っています。大分市や九重町などの  
なりのまちと由布市を結ぶ大切な道路です。

おおいたじどうしゃどう じどうしゃせんよう どうろ ゆふいん  
大分自動車道は自動車専用の道路です。湯布院インターチェンジが  
ゆふいん せっち  
湯布院に設置されています。

ふくおかし ふくおかくこう ゆふいん  
福岡市・福岡空港と湯布院をむす  
ぶ高速バスや、おおいたくこう ゆふいん  
大分空港と湯布院  
をむすぶ空港バスが運行していま  
す。一方で挟間地域は、おおいた  
大分インターチェンジが近いです。平成28  
ねんど ゆふだけ  
(2016)年度には由布岳スマート  
インターチェンジが開設しました。



# 由布市の文化・芸能活動

## しょうないかぐら 庄内神楽

### 庄内地域

市指定重要文化財【無形民俗文化財】平成19(2007)年6月29日指定

由布市では各地域で「神楽」が受け継がれています。特に庄内地域では、約200年続く「庄内神楽」があります。庄内神楽の特徴は勇壮でリズムカルな舞で、観客を魅了します。今では、神楽座だけでなく市内の保育園や由布高校でも取り組まれています。

庄内神楽は、大きく「阿蘇野地区系」神楽と、「庄内地区系」神楽の2つに分けられます。

### 阿蘇野地区系 神楽

阿蘇野神楽と中臣神楽の2社が伝統を受け継いでいます。起源は古く、阿蘇野神楽は、天明7(1787)年江戸時代の終わりごろ、中臣神楽は明治5(1872)年ごろと言われ、どちらも朝地町の深山八幡深山流神楽の流れをくむものです。この2社は継承された形を守りながら現在に至ると言われています。



庄内地区系神楽は明治12(1879)年ごろに庄内町高津の佐藤菊太郎氏により、豊後大野市大野町の上津八幡犬山神楽を伝授されたと言われています。佐藤氏は庄内神楽の先駆者として活躍しました。佐藤氏と、その子孫である長尾東氏により現在の庄内地区系神楽の多くの座が生まれています。今では、湯布院地域、挾間地域、大分市等で数多くの神楽座が庄内地域から伝授されています。

### 庄内地区系 神楽



ごほうれいし  
五方礼始

神楽を奉納するに当たり五方(東、南、中央、西、北)を清める舞です。陰陽五行説に従って東は木の神で青色、南は火の神で赤色、中央は土の神で黄色、西は金の神で白色、北は水の神で黒色であらわされています。日本の神話によれば、天地の創生と神々の生成を題材としたものです。



しばひき  
柴曳

天の岩戸開きを祈って、天児屋根命・太玉命が八坂瓊の勾玉や八咫の鏡を真榊に掛け、岩戸の前に奉納するため、天香具山の真榊を根こそぎにするという神話を題材とした勇壮な舞です。



かごゆみ  
鹿児弓

鹿児弓は、「武者」又は「天之鹿児弓」ともいいます。日本の神話による天の岩戸が開かれ、天照大神が連れ出されて再び世の中が明るくなったのを八百万の神々が鹿狩に使う天之鹿児弓と天羽羽矢を持ってお祝いに舞う神楽です。

● 庄内地域の神楽座 ●

阿蘇野神楽座  
櫟木神楽座  
大龍神楽座  
小野屋神楽座  
雲取神楽座

庄内原神楽座  
竹の中神楽座  
中臣神楽座  
平石神楽座  
庄内子供神楽座

みの草神楽座  
瓜生田神楽座  
庄内神楽有志会  
響姫会

おろち たいじ  
大蛇退治

大蛇退治(八雲払)は、綱伐・蛇斬を変曲・変舞したものといわれています。物語は、高天原を追放された素戔鳴尊が、出雲の国簸の川の上流で八岐の大蛇を退治して、櫛稲田姫を助け八重雲を切り払い新居の宮居に八重垣を作るというものです。また、櫛稲田姫に付き添っている足摩乳(足名椎)・手摩乳(手名椎)は、足や手となって、という働きを意味し、櫛稲田姫の櫛は神秘力、すなわち魔除けの霊義、稲田姫は水田を生み出すの義といわれます。



くにつかさ  
国司

日本の神話における出雲地方のために降臨神話を題材とした舞です。高皇産霊尊が経津主命と武甕槌命を遣わし、大国主命と国譲りについて談判をし、大国主命は御子事代主命と相談して国譲りを行う勇壮な舞です。(この場合、仲裁の使者として鳥船命又は、稲背脛命というチャリが登場して道化役を演じています)。

き けんじょう  
貴見城

古事記・海神宮・日本書紀・海幸山幸を題材としたもので、瓊々杵尊の子に火闌降命(火酢芹尊)・彦火々出見命という兄弟神の物語です。二人はそれぞれが持っていた釣竿と弓矢を交換しました。弟神彦火々出見命が兄神火闌降命の釣竿で魚を釣っていたところ、釣鉤をとられてしまい

別の釣鉤を作り兄神火闌降命に返したが、元の釣鉤を返すよう強要され弱っているとき、海神の助けで海神宮(貴見城)を訪れ釣鉤を探し出すという舞です。

● 挟間・湯布院地域の神楽座 ●

【挟間地域の神楽座】

上市神楽座  
府内神楽保存会

【湯布院地域の神楽座】

並若神楽社  
由布院神楽保存会  
湯平谷川神楽  
湯平子供神楽  
ゆふいん子供神楽社

市指定重要文化財【無形文化財】平成19(2007)年6月29日指定

「豊の国ゆふいん源流太鼓」は昭和54(1979)年に結成された和太鼓集団です。昔から地域に伝わっていた太鼓の調べを地域の人に知ってもらい伝えていき、地域を元気にしたいという想いで始めました。日本だけでなく、海外公演も実現しています。子どもたちに伝統文化を伝える活動を続け、子どもたちで結成する「ゆふいん源流少年隊」やその流れをくむ「三代目源流少年隊」は日本太鼓ジュニアコンクールにおいて、全国優勝するという快挙を成し遂げました。

### 海をこえて活やくする「ゆふいん源流太鼓」

結成当時、太鼓といえばお祭りや年に1~2度演奏される程度でした。一年間猛練習し「ゆふいん温泉まつり」で演奏を行ったことでメンバーは舞台上で演奏する喜びを知り、もっと和太鼓の魅力を伝えたいとさらに練習に打ち込みました。その結果、活動範囲は国を飛び越えて広がり、韓国で公演を行いました。この海外公演をきっかけに、現在まで60か国以上の地域で演奏やワークショップを実施し、国際交流を行っています。





## 由布市のいろいろなおまつり

由布市には、それぞれの地域ならではのまつりがたくさんあります。季節ごとに紹介します。

どのおまつりに  
行ったことが  
あるかな？

# 春

くろだけ ゆ ふ だけやまびら  
黒岳・由布岳山開き(4月～5月)



あたたかくなってくると、由布市の山々はいっせいに芽ぶきの季節を  
迎えます。くじゅう連山の一つの黒岳では登山口のある男池を会場に、  
由布岳では、由布岳正面登山口を会場にして、登山者の安全を祈願す  
る神事などがおこなわれます。

### 庄内地域



～黒岳の山開き～

### 湯布院地域



～由布岳の山開き～

### おんせんまつ ゆふいん温泉祭り(4月)

昭和25(1950)年に始まった温泉に感謝す  
るお祭りです。毎年4月中旬におこなわれ  
ます。「献湯祭」という温泉のめぐみに感謝  
する儀式からはじまり、キャンペーンレデ  
ィ任命式、伝統芸能の公演などの多彩な催  
しが行われています。

### 湯布院地域



ゆのひらおんせん  
湯平温泉まつり(5月)

湯布院地域

ゆのひら おんせん めぐ かんしゃ まつ  
湯平の温泉の恵みに感謝するお祭り  
す。 平成30(2018)年は139回目が  
開催され伝統のあるお祭りです。幼稚園  
かいさい でんとう まつ ようちえん  
の子どもたちによる稚児行列や参加者  
ち こぎょうれつ さんかしゃ  
が仮装をして石畳の坂道をかけあがる  
かそう いしだみ さかみち  
「地獄の駕籠かきレース」など、この日  
じごく かご  
は湯平温泉の石畳が多くの人でとても  
ゆのひらおんせん いしだみ おお ひと  
にぎわいます。



夏

おんがくさい  
ゆふいん音楽祭(7月)

湯布院地域

ゆふいんこうみんかん かいさい  
湯布院公民館ホールで開催されてい  
るクラシックの音楽祭です。昭和50  
おんがくさい しやうわ  
(1975)年の大分県中部地震が発生し  
ねん おおいたけんちゆうぶじしん はっせい  
た年にゆふいんのげんきを発信しよう  
とし ゆふいん げんき はっしん  
と始まったイベントでしたが、平成21  
はじ へいせい  
(2009)年に終了しました。平成28  
ねん しゅうりよう へいせい  
(2016)年4月に起きた熊本地震によ  
ねん がつ お くまもとじしん  
り復活し、地元(ふっかつ)に活気(じもと)をもたらし  
ふっかつ じもと かっき  
ています。



挾間地域

ゆふし なつまつ ゆふし はなびたいかい  
由布市はさまこども夏祭り・由布市はさま花火大会(8月)

ひるま ゆふし なつまつ おこな なつ あそ たいけん  
昼間は「由布市はさまこども夏祭り」が行われ、懐かしい遊びの体験  
こ ゆうがた ほんおど たいかい おこな  
コーナーや子どもひろばなどがあります。夕方からは盆踊り大会が行  
われ、その後は「由布市はさま花火大会」が行われます。大分川の河川  
あと ゆふし はなびたいかい おこな おおいたがわ かせん  
じきが花火(はなび)で明るく照(あか)らされます。この日は朝(ひ)から夜(あさ)まで挾間地域(よる)が  
はなび あか て ひ あさ よる はさまちいき  
にぎやかになる日(ひ)です。

## ゆふいんえいがさい 湯布院映画祭(8月)

### 湯布院地域

しょうわ ねん はじ げんぞん なか にほんさいこ えいがさい  
昭和51(1976)年に始まった、現存する中では日本最古の映画祭です。  
にほんえいが つく て であ ば ぜんいん  
日本映画のファンと作り手が会える場として、全員ボランティアで  
うんえい ぜんやさい えいがかんたく はいゆう ぶたいあいさつ  
運営されています。前夜祭や映画監督・俳優による舞台挨拶、ゲスト  
さんかしゃ はな あ おこな  
と参加者が話し合えるパーティーも行われます。

## おのやじゅうしちやかんのんさい 小野屋十七夜観音祭(8月)

### 庄内地域

ねんまえ おのやちく てんち  
およそ200年前、小野屋地区の伝治  
ふち かわ なか おお かめ  
が淵とよばれる川の中に大きな亀  
す ひとひと かわ わた  
が住んでいました。人々が、川を渡  
さい かめ せなか いし まちが  
る際に亀の背中を石と間違えて、  
みず お し  
水に落ち、死んでしまうことがた  
びたびありました。この川で亡く  
ひと とむら  
なった人たちのたましいを弔うこ  
はじ まつ いま たさう しゅってん なみ しょうろうなが  
とから始まったお祭りです。今では、多数の出店が並び、精霊流しや  
かくら はなびたいかい もよお おこな こ  
神楽、花火大会など、いろいろな催しが行われます。子どもたちも楽  
しみにしているお祭りです。



## ゆのひらはぐま 湯平白熊まつり(9月)

### 湯布院地域

まいとしょうび かんけい がつ にち にち たにがわ  
毎年曜日に関係なく、9月14日、15日に谷川  
じんしゃ おこな れきし まつ ごこくほうじょう  
神社で行われる歴史ある祭りで、五穀豊穡と  
ちいき へいわ ねが むかし じもと あき たいさい  
地域の平和を願う昔ながらの地元の秋の大祭  
ゆうがた こ だいこ せんとう しろ けやり  
です。夕方から子ども太鼓を先頭に、白い毛槍  
かか はぐま おとこしゅう ゆのひらおんせんいし  
を掲げた白熊(=男衆)たちが湯平温泉石  
だみがい ね ある やまじんしゃ くだ やまじんしゃ  
畳街を練り歩き、山神社へと下ります。山神社  
こどもかくら  
で子供神楽があります。



# 秋



## ゆふいんうしく ぜっきょうたいかい 由布院牛喰い絶叫大会(10月)

湯布院地域

しょうわ ねん はじ だいしぜん かこ ひろ ぼくそうち  
昭和51(1976)年に始まったイベントで、大自然に囲まれた広い牧草地  
なか じもと ぶんご ぎゅう た あと さんかしゃ  
の中で、地元の「豊後ゆふいん牛」のバーベキューを食べた後、参加者  
おも おも ぜっきょう こえ おお ないよう きそ ないよう  
が思い思いの絶叫をし、声の大きさや内容などを競います。内容のユ  
ニークさから、まいとしおお かんこうきゃく おとす こうれいぎょうじ  
ニークさから、毎年多くの観光客が訪れる恒例行事となっています。



## ぶんか きろくえいがさい ゆふいん文化・記録映画祭(10月)

湯布院地域

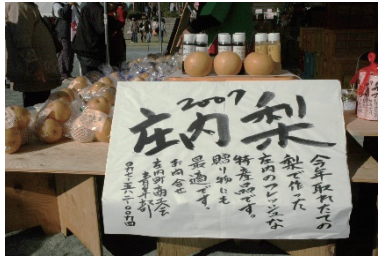
へいせい ねん はじ えいがさい ゆふいんえいがさい べつ ぶんか  
平成10(1998)年に始まった映画祭で、「湯布院映画祭」とは別の文化、  
きょういく かがく きろくえいが えいがさい えいが こうりゅうかい とお  
教育、科学、記録映画の映画祭です。映画と交流会を通して、くらし  
をみつめてきました。この映画祭と縁の深かった記録映像作家の松川  
やす おかんとく まつかわしゅう つく  
八洲雄監督にちなんで松川賞も作られました。

しょうないかぐらまつ しょうないちよう まつ  
庄内神楽祭り・庄内町ふるさと祭り(11月)

庄内地域

まいとし がつ にち ぶんか ひ かぐら さと ゆ ふ し しょうないちよう しょうないそうこううんどう  
毎年11月3日(文化の日)に、神楽の里由布市庄内町では庄内総合運動  
こうえん しょうないかぐらまつ しょうないちよう まつ かいさい  
公園にて庄内神楽祭り・庄内町ふるさと祭りが開催されます。

しょうないかぐらまつ しょうないかぐら けいしょう しょうないかぐらざ しょうないちいき  
庄内神楽祭りは、庄内神楽を継承する庄内神楽座のほかに、庄内地域  
ほいくえん こ ゆ ふ こうこう きょうどげいのうぶ おお かぐら にな  
の保育園の子どもたちや由布高校の郷土芸能部など多くの神楽の担  
て いちどう かい しゅつえん ねんれいそう はびひろ しょうないかぐら  
い手が一堂に会します。出演する年齢層も幅広く、庄内神楽のダイナ  
ミックでリズムカルな舞を、朝から夕方まで一日中楽しむことができ  
ます。同時開催の庄内町ふるさと祭りでは、のうさくぶつ とくさんひん はんばい  
同時開催の庄内町ふるさと祭りでは、農作物や特産品の販売、  
てんいじょう しゅってん こ ひろば おお ひと  
40店以上の出店、子ども広場などがあり、多くの人でにぎわいます。



はさま きちよくれまつ  
はさま きちよくれ祭り(11月)

挾間地域

はさまちいき あき こうれい  
挾間地域の秋の恒例イベント。「きちよ  
くれ」とは、おおいた ほうげん き ほ  
くれとは、大分の方言で、「来て欲し  
き い み はさま  
い」「来ておくれ」という意味です。挾間  
はっしょう ち はいふ  
が発祥の地とされる「やせうま」の配布  
じもと と のうさんぶつ はんばい たしゅ  
や地元で採れた農産物の販売、多種  
たさい いんしょく なら かぐら  
多彩な飲食コーナーが並びます。神楽  
たいこ  
や太鼓、ダンスなどのステージや子  
すもうたいかい おお もよお  
も相撲大会など多くの催しでにぎわいます。



## ならねっ子まつり(11月)

### 挟間地域

はさまちいき しゅっしん ぜんこく じどうぶんがく  
 挟間地域の出身で、全国に児童文学  
 (童謡・童話)の種をまいた「児童文化  
 の父」後藤榎根を記念したお祭りです。  
 榎根が夢見た「児童文化の花」を咲かせ  
 するため、会場では榎根作品の読み聞かせ  
 や子どもコーラス、押し花や昔の遊び  
 体験コーナーなど、たくさんの催しが  
 行われます。大人も子どももみんなで楽しめるお祭りです。



# 冬



## つかはらあまざけ 塚原甘酒まつり(12月)

### 湯布院地域

まいとし がつ にち かいさい きりしまじんじゃ おのの  
 毎年12月11日に開催される霧島神社(男能濃  
 松神社)のお祭りです。その年に出来たお米  
 で甘酒をつくり、神様におそなえして、豊作  
 と平和であることを感謝し、お祈りをしま  
 す。お祭りの準備は、甘酒づくりのための蔵  
 (小屋)を建てることから始まります。蔵に  
 はしめ縄を張り、甘酒づくりには、決められた人しか入れない、など  
 さまざまな決まりごとがある伝統のあるお祭りです。



だいじょうごんじんじゃはる たいさい  
大將軍神社春の大祭(1月)

挾間地域

だいじょうごんじんじゃ むかし ぎゅうば かみさま しんこう まいとし しんれき  
大將軍神社は昔から牛馬の神様として信仰されています。毎年、新曆  
がつ にち かかん おこな まつ のうこう  
1月13日からの3日間に行われるこの祭りは、農耕にかかせなかった  
ぎゅうば あんぜん けんこう いの まつ げんざい むびょうそくさい ねが ひとびと  
牛馬の安全や健康を祈るお祭りであり、現在は無病息災を願う人々が  
まい おとす しょにち ちょうない ちくさんのうか わぎゅう いっしょ さんばい  
参りに訪れます。初日には町内の畜産農家が和牛と一緒に参拝し、  
けいだい うえぎ かなもの あめ ろてん で にぎ  
境内には植木、金物、飴など露店が出て賑わいます。



## 由布市の料理（郷土料理）

### （1）主食として食べられるもの

#### だんご汁<sup>じる</sup>

ゆふしだけでなく県内各地で日ごろから食べられていた「だんご汁」。作り方は、いりこを入れふっとうさせたお汁に、季節の野菜を入れます。そこに、小麦粉と塩と水で練って作った“だんご”を伸ばして入れます。最後に、お味噌で味付けをします。



#### 昔は違った“だんご汁”？

昔は、「だんご汁」と言えば、米粉で作っただんごを手でにぎって入れたものでした。そして、今のように、小麦粉で作っただんごを手で伸ばしながら入れたものは「ほうちょう汁」といって、区別されていました。そのうち「だんご汁」は、大事な米粉の代わりに小麦粉を使うようになり、いつの間にか、昔の「ほうちょう汁」と「だんご汁」が一緒になって、今では「だんご汁」が郷土料理として知られています。

#### かしわ汁<sup>じる</sup>

農家では、多くの家でにわとりが飼われていました。祝い事など人が集まる特別なときに、家のにわとりをつぶして振る舞われていたのが、「かしわ汁」です。具はとり肉とごぼう、お汁は、醤油と酒で味付けします。山に囲まれた湯布院町では、とりを使ったお吸い物が好まれ、昔はごちそうだったそうです。





## かしわめし(とりめし)

かしわめしは、とり肉を使った炊き込みご飯です。大分県内全域で親しまれていますが、作り方や入れる具は地域によって違います。昔、庄内地域では、来客や行事の時に、「塩け飯」の中に



鶏肉(かしわ)と野菜を混ぜたものが作られていました。湯布院地域では、ごぼうと人参をそいで、鶏肉と一緒に炊いたかしわめしが親しまれてきました。

### ●作ってみよう！～かしわめしの作り方～●

#### \*材料\*

米 3合  
 鶏肉 200g  
 ごぼう 100g  
 人参 70g  
 しょうゆ 70cc  
 砂糖 少々  
 サラダオイル 少々

#### \*作り方\*

- ①米を洗い、通常の水の量で炊く。
- ②鶏肉、人参はこま切り、ごぼうは小さめにそぎ切りにする。
- ③②を油で炒め、20分ほどにする。
- ④材料が柔らかくなったら、砂糖醤油で味を整え、炊き上がったごはんの上に平に乗せ、煮汁を少々かけたら、もう一度炊飯器のスイッチをいれ、追い炊きする。
- ⑤スイッチが切れたらよくかきまぜる。

『100歳イリエおばあちゃんの知恵袋』63ページより

## けんちゃん(けんちん)

大分県内でも「けんちゃん(けんちん)、けんちゃん汁(けんちん汁)」といって、各地で作られる郷土料理ですが、地域によってよび方や作り方が異なります。由布市で作られる「けんちゃん」は、お汁がない、具を中心とした料理です。お豆腐と根菜類を大きく切って、炊いたものです。



## (2) 由布市のおやつ

### やせうま

「やせうま」は由布市挾間町で生まれたとされています。もとは仏教の儀式や行事のときの食べ物ですが、昭和30(1955)年頃から家庭のおやつとして親しまれてきました。小麦粉でつくった団子を細長く引き伸ばし、ふっとうしたお湯でゆでます。塩と砂糖で味つけしたきなこをまぶして出来上がり。



### 「やせうま」のなまえの由来

その昔、平安時代にみやこからこの挾間の片田舎におちのびてきた貴族の子どもがいました。名前は藤原鶴清磨といました。鶴清磨は、おなかがすくと、乳母の「八瀬(やせ)」におやつをせがみます。そうして八瀬が作ってあげたのがこの「やせうま」です。それから鶴清磨は、おなかがすくと「やせ、うまがほしい」「やせ、うま、うま」と言っておやつをせがんだそうです。それが「やせうま」というおやつになったということです。

### じりやき(ひやき)

子どものおやつや雨の日の「こびる(こびり)」としてよく作られていたのが、「じりやき(ひやき)」です。

じりやきは、小麦粉を水でゆるく溶いたものを薄くのばして焼きます。できた生地きじに黒砂糖くろざとうやかぼちゃの“あん”を巻いて食べます。現代では卵たまごを入れて、ふわっとおいしく作ります。「じりやき」と言われるようになったいわれは、“じりじり焼く”からとも、生地きじが“じりい(「ゆるい」の大分弁)おおいたべん”からとも言われています。県内各地で食べられています。



## かぼちゃもち

地元でとれた小麦粉と、かぼちゃで作るおもちです。ベーキングパウダーを入れないため、ずっしりと重くなります。作り方は、小さく切ったかぼちゃに砂糖をまぶして一晩ねかせます。かぼちゃから水分が出てくるので、その水分で地粉をこね、かぼちゃと混ぜて蒸したらできあがり。



## 農家のおやつ～こびる・こびりの習慣

田植えや稲刈りなどで特に農作業の忙しい時期には、10時頃と15時頃に「こびる（こびり）」をとる習慣がありました。「こびる（こびり）」とは、「軽い食事」や「おやつ」のことです。「こびる（こびり）」で食べられていたものは、おにぎり、じり焼き（ひやき）、さつまいも、炭酸まんじゅう、ゆでもち、石垣もち・飯餅・あられなどがありました。

## (3) 特別なときの料理

### とき お斎

法事の最後に振る舞われるお料理を「お斎」と呼びます。昔は、お葬式や法事を家で行っていたので、近所の農家の方から野菜やお米をいただくなどしてお斎を作っていました。お斎というのは、もともと、お坊さんがお寺で食べる料理のことでした。そのため、肉や魚の使われない精進料理で、「殺生」を連想させるメニューはありませんでした。作り方や盛り付け方も決められていて、作るのが大変だったそうです。



今では、ホテルや料亭などで法事を行うことが一般的になりました。そのため、料理の内容も比較的自由になっています。

## 由布市の文化財

「文化財」とは、由布市の歴史を知るための大切に守っていかなければならないもののことを言います。現在、由布市には国指定文化財が4件、県指定文化財が21件、市指定文化財が54件と全部で79件の文化財があります。ここでは、ぜひ、みなさんに知ってもらいたい文化財を紹介します。



文化財っていうのは、由布市のたからものことなんだって。

古いものばかりだと思ってたよ



古いけど、残っていることで昔の由布市がどんな地域だったのか、知ることができるよ。

しょくぶつや生きものは？



とくていの場所でしかみられないしょくぶつや生き物も記念物といった名前で登録されるよ。そうすることで、守っていくことができるんだ。

## 国指定重要文化財

### けんぼんちゃくしょくほうぎゅうこうりんぞう びじゅつひん こうげいひん 絹本著色放牛光林像(美術品・工芸品)

国指定重要文化財【絵画】平成2(1990)年6月29日指定

けんぼんちゃくしょくほうぎゅうこうりんぞう はさま りゅうしょうじ てら ほう  
絹本著色放牛光林像とは、挾間の龍祥寺というお寺をひらいた「放  
ぎゅうこうりん ぼう え おお たて よこ  
牛光林」というお坊さんの絵です。大きさは縦100.2cm、横50.4cmで、  
せ まる うわめづか すると め こうりん とくちょう ひょうげん  
背を丸めて上目遣いの鋭い目に、光林の特徴が表現されています。  
けんぼんちゃくしょく きぬ の いろ ぬ ほうほう おくぶか ひょうげん あじ  
絹本著色とは絹の布に色を塗る方法で、奥深い表現ができ、味わいの  
し あ とくちょう ほうぎゅうこうりん さい  
ある仕上がりとなるのが特徴です。放牛光林は、「10歳にしてすでに  
ほけきょう けこんきょう にきょう あんしょう とな つた  
法華経と華嚴経の二経を暗唱して唱えた。」と伝えられています。30  
さいぜんご ちゅうごく わた まな りゅうしょうじ かいざん けんとくがん ねん  
歳前後で、中国に渡り学びました。龍祥寺の開山が建徳元(1370)年、  
こうりん さい ねんご さい な  
光林が81歳のときでした。そして3年後、84歳で亡くなっています。



おおごしゃ おお てんねんきねんぶつ  
大杵社の大スギ(天然記念物)

国指定重要文化財【天然記念物】昭和9(1934)年8月9日指定

ゆふいん おおごしゃ けいだい おお おお ね  
湯布院の大杵社の境内にひとときわ大きい大スギがあります。根っこの  
まわ やく むね たか みき ふと やく き たか やく  
回りは約15m、胸の高さでの幹の太さは約10m、木の高さは約37mにも  
なります。じゅれい せんねんいじょう ねんげつ かせ  
樹齢は千年以上ともいわれています。年月を重ねるごとに、  
えだ お いま は  
枝が折れたりともろくなっていますが、今もあおあおとした葉をしげ  
らせています。



## イヌワシ

国指定文化財【天然記念物】昭和40(1965)年5月12日指定

イヌワシはタカの一いっしゆ種で、するどいくちばしとツメをもち、ほかの動物どうぶつを食べる猛禽類もうきんるいです。体長は75~95cm、左右のつばさを広げると1m70cm~2m20cmにもなります。崖などに生える高い木に巣をつくり、主おもにノウサギやヤマドリ、ヘビ等とうをえさとします。えさをとる場所は低い木がしげっている場所や草原そうげんのような開けた場所ですが、そのような場所ばしよが日本にほんでは少なくなっているため、イヌワシが暮らすことができる場所ばしよも減っています。環境省かんきょうしょうが出した「絶滅のおそれのある野生生物の種しゆのリスト(レッドリスト)」では「絶滅の危険が増大している種しゆ」に指定されており、とても貴重な鳥です。大分県では、昭和61~63年度に調査せいかつがおこなわれ、オスとメスのつがいかくにんが確認されました。イヌワシが生活する範囲はんいは広く、由布市庄内・湯布院地域ゆふしじょうない、竹田市直入・久住地域たけだしなおいり、九重町にまたがるくじゅうの山々やまやまです。また黒岳周辺くろだけしゅうへんに巣がつくられていることも九州きゅうしゅうで唯一確認ゆいいつかくにんされました。



△飛翔するイヌワシ（日本野鳥の会 大分県支部提供）

きゅうひ の いいん けんぞうぶつ  
旧日野医院(建造物)

国指定重要文化財【建造物】平成11(1999)年12月指定

湯布院にある日野病院は、江戸時代から始まった医者の家系によって  
つくられた歴史のある病院です。川西地区にある旧日野医院の建物は、  
明治27(1897)年に日野家の3代目の日野 要さんによって建設されま  
した。日本の職人が洋式建築をモデルとして作ったもので、大分県内  
では最も古いものとされています。日本でも珍しい建物で、平成11  
(1999)年に国の重要文化財に指定されました。



●行ってみよう！●

大工さんが作った洋風の木造建築です。玄関上のベランダやらせん階段など  
ちいさなところまで、作っているよ。こて絵もあるよ。

大分県でも当時はめずらしい女性のお医者さん、  
日野俊子先生もここで活やくしたよ。





## 県指定文化財

### はさまなおしげし ぼ ひ せきぞうごりんとう さんき 狭間直重氏の墓碑(石造五輪塔(三基))

県指定重要文化財【建造物】昭和47(1972)年3月21日指定

はさまち りゅうしょうじ てら にしがわ かまくらしだい せんごくしだい はさま  
狭間町の龍祥寺というお寺の西側には、鎌倉時代から戦国時代まで挟  
ままちいつたい しはい はさまし ぼち  
間町一帯を支配していた狭間氏の墓地があります。その真ん中に、  
いちばんおお ぼせき  
一番大きくどっしりとした墓石があります。それがはさまししよだい はさま  
なおしげ はか なおしげ おおともけ しよだいおおもよしなお まご かまくらしだい  
直重のお墓です。直重は大友家の初代大友能直の孫で、鎌倉時代や  
むろまちしだい こんらん しだい ちゅうごく げん くに き とき  
室町時代の混乱していた時代に中国の元の国がせめよせて来た時、  
おおもとけ いちぞく はんえい ささ  
大友家の一族としてその繁栄を支えました。



直重はどの家来よりも力もちで、どんな大男でも持ち上げるのできなかった大きな石をかんたんに持ち上げて歩いてみせるほど、怪力の持ち主だったんだって。



## オダニのくるま橋

県指定重要文化財【建造物】昭和52(1977)年3月31日指定

「オダニのくるま橋」は庄内町櫛木の間田川にかかる石橋です。橋の長さは約12m、アーチ部分は幅約6m、高さは約4m。川幅に比べて大きくどっしりとした橋です。ばらばらな大きさの石を積み上げる「切り込みハギ」と呼ばれる技術が使われていますが、壁の部分は隙間がなく、きれいにつみあげられています。由布市にある石橋の中でも一番古く、美しい橋です。たくさんの工夫によって支えられているこの橋は、「未来永劫流されない強い橋をかけるのだ」という当時の人々の思いが伝わってきます。



半円状にくり抜いたように見えるつくりの橋を「アーチ橋」といいます。大分県では「くるま橋」と呼ばれていました。世界各地でみることができる、橋のつくりかたです。



## ゆふいん ぼぐん 由布院キリシタン墓群

県指定史跡【史跡】昭和35(1960)年3月22日指定

由布院盆地内にはキリシタンの墓、もしくは隠れキリシタンの墓と伝えられるものがたくさん残っています。その数は、500基以上とも言われています。このうち特に多くの墓が集まっているのが「並柳墓地」です。並柳墓地は現在も共同の墓地として使用されていますが、キリシタンのお墓は日本でよくみられる仏教式のものと



違い、直方体の平らな石を地面に置いただけのお墓です。ほとんどのキリシタンの墓では薄型に十字が彫られており、その交差の仕方にも様々な種類があります。

### キリシタンの多い村だった由布院

戦国時代の大名、大友宗麟はキリスト教の宣教師の布教活動を守り、大友宗麟もキリスト教の洗礼を受けたためキリシタン大名と呼ばれました。天正6(1578)年、由布院地域の有力者だった奴留湯(ぬるゆ)氏一族が洗礼を受けたことや、大友宗麟の保護によりキリスト教は由布院にひろまり、宣教師とキリシタン達の手によって、由布岳の山頂に十字架が建てられたそうです。当時、由布院には1500~2000人のキリシタンがいたと言われています。天正14(1586)年には今の興禅院の場所に「聖ミゲル教会」が建てられました。しかし、その年の12月、鹿児島島の島津軍が由布院に乱入し、教会も破壊しました。さらに翌年6月、豊臣秀吉が宣教師に国外に出ていくよう命じ、何度も出された禁教令により、キリシタンは少なくなってしまいました。



## 市指定文化財

### あな ンばし 阿南橋

### 庄内地域

市指定重要文化財【建造物】平成19(2007)年6月29日指定

おおいけん はつ ようしき がた いしばし ゆふし していぶんかざい  
大分県では初となる洋式のアーチ型の石橋で、由布市の指定文化財に  
にんてい ちよくほうたい かこう いし つ なみ むのづ  
認定されています。直方体に加工した石を積むように並べる「布積み」  
よ ぎほう つか じつようてき はし きのう  
と呼ばれる技法を使っています。実用的な橋としての機能だけでなく、  
せきぞうびじゆつ み くふう そな うつく はし  
石造美術としての「見せる」工夫も備えた美しい橋です。

### えいけいじ ちゃがま 永慶寺の茶釜

### 庄内地域

市指定重要文化財【工芸品】平成19(2007)年6月29日指定

しょうないちょう ご か せ おか うえ えいけいじ てら  
庄内町五ヶ瀬の丘の上に、永慶寺というお寺があ  
ります。ここに大切にされている茶釜があり、羽  
たいせつ ちゃがま つば  
を含む直径は40cmほどあります。湯が沸き立つ  
ふく ちよっけい ゆ わ た  
とき す み きんいろ かがや み い  
時に透かして見ると、金色に輝いて見えると言わ  
れています。永慶寺は建長2(1250)年からあるお  
えいけいじ けんちょう ねん  
寺で、39代にわたり絶えることなく教えを守り保  
てら だい た おし まも たも  
ちつづけています。



### 永慶寺の茶釜の不思議～夜な夜な泣く金の茶釜

むかし、永慶寺には大きくて立派な金の茶釜があり、寺の宝物として大切にされていました。ところが戦国時代のある日、薩摩の島津勢が豊後に攻め込んできました。永慶寺のあたりでも戦いがおこり、寺もついに焼かれてしまいました。戦いが終わって、和尚さんが戻ってみると、大切な茶釜がなくなっています。和尚さんはとても心配して一生懸命探してみましたが、見つかることができませんでした。それから何十年もたったある時、妙な噂が広まりました。「大分にものをいう茶釜があるそう。永慶寺へ帰りたい、永慶寺へ帰りたいと、夜なくそう。不思議な茶釜じゃあ。」その茶釜の持ち主は、古道具屋でいい茶釜を見つけたので買って帰りましたが、このような奇妙な事がおこるので気持ち悪くなり、永慶寺に返すことにしました。永慶寺に帰った茶釜は、湯を沸かすとそれはそれは、何とも言えない、いい音がしました。その音は、静かにお経を唱えるようで、村人はその音を聞くと心が落ち着き、優しい気持ちになったということです。(出展:永慶寺史料)